

113.レセプト等情報を用いた脳卒中、脳神経外科医療疫学調査

J-ASPECT study

研究の概要

本研究班は発足以降、厚生労働科学研究費補助金の循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業、および日本医療研究開発機構研究費の循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策実用化研究事業として研究を続けています。

2013年度に実施した「日本の脳神経外科医療の可視化に関する研究」においては「第34回日本脳神経外科コンgres総会」にて特別企画「医療におけるビッグデータの活用」と題して結果報告を行いました。

本研究班の基幹事業である「レセプト等情報を用いた脳卒中、脳神経外科医療疫学調査」では、過去9年間に本邦最大のデータベース(延べ775施設、DPCデータ約429万件、うち脳卒中症例約109万件)を構築しています。

研究の目的と方法

J-ASPECT study参加施設から提供されるDPCデータ若しくは匿名化处理した医科レセプトデータにより、脳卒中、脳神経外科関連の傷病名等に基づいて対象症例を絞り込んだ全国規模の大規模データベースを構築し、今後の脳卒中関連の研究等に活用すると共に、医療施設の負荷を抑えた方法で脳卒中、脳神経外科医療に関する症例データベース構築を継続していくことを目的とします。

本研究の参加について

DPCデータ及びレセプトデータによる観察研究のため、身体的な利益及び不利益は生じことはありません。個人情報については、連結可能匿名化(試料・情報と研究対象者個人を連結する登録番号を設定し対応表を作成する。)対応表の管理方法は、パスワードを設定したファイルとして管理し、外部と接続できないパソコンで厳重に取り扱います。参加施設のIDとの紐付けは行わないため、個人情報が特定されることはありません。

調査する内容

生年月日、性別、発症年月日、入院年月日、退院年月日、退院先自宅郵便番号、診療報酬算定情報(DPC)

入院経路:救急車による搬送、他院よりの紹介

入院前および入院後生活自立度(modified Rankin Scale score, mRS)、入院中死亡の有無
初期重症度。(JCS、GCS、NIHSS、Hunt&Hess grade、ICH grade、Hunt&Kosnik grade)

検査データ(腎機能、LDL-Chol、PT-INR)

搬送から画像撮影までの時間

搬送から組織プラスミノゲン活性化因子(rtPA、血栓溶解療法)投与までの時間

搬送から血管内治療のための穿刺までの時間

血栓回収を行った場合の再開通度(TICI grade)

rt-PA静注療法または血管内再開通療法を施行した患者での36時間以内の症候性頭蓋内出血(NIHSS4点以上悪化)の有無

退院90日後modified Rankin Scale(mRS)

画像診断、検査の有無(MRI、MRA、CT、脳血管造影、頸動脈超音波検査、撮影・検査未実施)

リハビリテーションの有無、脳卒中・脳神経外科関連の診療にかかわる治療内容

*外部機関への研究データの提供

上記の診療情報を、下記研究機関と共有して、共同で研究を進めます。

業務委託:健康保険医療情報総合研究所(PRRISM) 代表取締役社長 山口治紀

*外部機関からの情報の提供

当院は、J-ASPECT研究参加施設機関より学術研究目的で情報提供を受けます。

上記の「調査する内容」に示した内容の情報の提供を受けます。

調査期間

研究対象期間:2016年4月1日～-2020年3月31日まで

研究実施期間:倫理委員会承認後～2026年3月31日まで

研究成果の発表

論文発表を行います。これまでJ-ASPECT studyから発表された英文原著論文は16編になります。

研究代表者

国立循環器病研究センター 病院長 飯原弘二

当院における研究責任者

国立病院機構熊本医療センター 脳神経外科 中川隆志

問い合わせ先

国立循環器病研究センター 担当医師 西村邦宏 電話06-6170-1070(代表)

国立病院機構熊本医療センター 担当医師 中川隆志 電話096-353-6501(代表)

*J-ASPECT研究

本研究の研究内容、参加施設名、患者さん向けの資料などにつきましては、[研究班ホームページ](#)

[J-ASPECT Study、https://j-aspect.jp](#))にて随時公開しております。